

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000289		
法人名	株式会社 はるす		
事業所名	グループホームはるすのお家 もえぎの里		
所在地	和歌山県橋本市菖蒲谷979-1		
自己評価作成日	平成23年5月17日	評価結果市町村受理日	平成23年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071000289&amp;SCD=320&amp;PCD=30">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071000289&amp;SCD=320&amp;PCD=30</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年6月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然が豊かで穏やかな環境に立地しています。春にはホームの素基地内で入居者の方々と竹の子掘りを楽しみます。セラピー犬の「あきこ」が入居者様・スタッフの癒しとなっています。入居者様が安心して生活できるよう、スタッフ一同努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた環境の中、広い敷地内に当該ホームが立地しています。利用者本位のニーズを守ると言う理念を實踐できるような努力をされています。庭は広く自由に出入りが出来、利用者が庭に出て草むしりをしたり、散歩するなど安心して暮らせるよう支援されています。敷地内で利用者と一緒に竹の子を掘り、食材にも活かされ楽しみとなっています。日常生活の中で利用者の出来ることを大切にし、食事づくりでは利用者が卵を割ったり包丁を使う等出来るだけ見守り支援しています。又、周りに地域住民が少ない中でも地域との結びつきを強める努力をされています。小学校の課外授業や市主催の「シニアリーダーカレッジ」の受け入れを行い、当該ホームが緊急時の避難場所になる等地域に密着したサービスが提供できるよう努力されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホームはるすのお家 もえぎの里	玄関など目につくところに掲示し、実践に向けて取り組んでいる	理念にそって家庭的な当たり前の日常生活の場の提供を心がけると共に利用者の力が発揮出来るよう支援しています。ユニット毎に作られた理念は玄関の目につくところに掲示しています。利用者の様子を見ながら理念に沿っているか会議などで確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っているが、入居者様は参加できていない	自治会に加入し、地域の溝掃除などには職員が参加し交流に努めています。日常的には、散歩や買い物時など顔みしりの人と挨拶を交わしたり、畑仕事をしている人からの梅やジャガイモの差し入れがあります。小学校の福祉体験事業などの受け入れを行い、子どもとの関わりを利用者ともに楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	シニアリーダーカレッジのなどに来ていただき、認知症を理解していただけるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に1回開催している。回数は少ないが、地域民生委員・入居者家族様等で構成され、現状報告・行事報告し、質疑応答の時間も設けています	運営推進会議は、地域包括支援センター、民生委員、家族の参加の下、年1回開催しています。ユニット毎の現状報告や活動を報告し意見交換を行っています。地域包括支援センターからの情報提供もあり、欠席家族には会議録を送付しその内容を伝えています。	テーマや内容を事前にお知らせするなどの工夫で、なかなか難しいことですが、当初は年2回とし、毎年少しずつ、回数を増やし、2ヶ月に一度の定例化を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	手続きなどで接するなかで関係を築いていくよう努める	介護保険課や生活支援課との関係は良好で、今後も積極的に関わりながら協力関係を継続できるよう取り組んで行く意向です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時やむを得ない場合以外は身体拘束を行わないケアに取り組んでいます	職員会議や新人研修を行い、身体拘束について話し合い理解を深めています。警察から防犯上の指導もあり、門扉は施錠していますが、門以外は解放し広い敷地内を自由に出入りができます。利用者の様子を見て外に出かけたい様子があれば同行するようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士気をつけ、お互いに声掛けをする		

グループホームはるすのお家（もえぎの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある方には社会福祉協議会や地域包括支援センターに相談しながら支援を行う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には上司が丁寧に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からの要望などがあればユニットミーティングで話し合っている	面会時や電話などで家族と話す機会を作り意見や要望を聞いています。毎月の便りには要望記入欄を設け意見を求めています。職員が室内履きで外に出る時があり、家族の意見で下履の設置をするなど、運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を通して本社へ伝達している	ユニット毎のミーティングでは気軽に話し合うことが出来、出された意見はホーム長会議で運営に反映させるように取り組んでいます。日常的にはユニットマネージャーが聞くようにしており、職員からレクリエーションへの提案が出され、話し合うなど運営に取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の時に面談を行う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しいスタッフには職員が付き指導する		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアネット和歌山に加入している		

グループホームはるすのお家（もえぎの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話をよく聞き、状況に応じて本人にとって良いと思われる支援を心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や悩みを聞く場を設け、受け止めるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様などを含め話し合い、必要な支援を見極めて対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること・得意なことを活かせるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と連絡を取り合い、本人を支えていくよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊など家族様に協力してもらいながら支援している	利用者の女学校時代の友人との定期的な電話による交流の支援や、写真を趣味にしていた利用者の作品を壁に飾る等趣味の継続的な支援をしています。本人が希望する墓参りなどには、家族の協力を得るなどして馴染みの場所へ行けるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を把握し、トラブルにならないよう座る位置などを工夫している		

グループホームはるすのお家（もえぎの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族様の要望があれば、相談支援に努めたい		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報を集め、できるだけその人に合った暮らしができるよう努めている	アセスメントで得た情報を活用し、日々の関わりの中で思いの把握に努めています。困難な時は家族の面会時や電話で聞いたり、本人の顔色、表情、目線、行動で気づくように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族様から生活歴などの情報を聞き、スタッフと共有できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや日々の記録・スタッフ間の連絡ノートを活用し、現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングにて家族様の要望などがあればスタッフ間で話し合っているが、介護計画には反映されていない	アセスメントで得た情報を基に介護計画を作成し、職員が気づき検討された情報や、家族から郵送された要望を介護計画に反映させています。2～3か月に1回モニタリングを行ない、訪問看護師や主治医の意見も反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入や連絡ノートなどで情報を共有しているが、介護計画の見直しはできていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護などの医療関係と連携をとりながら、生活の継続ができるように支援している		

グループホームはるすのお家（もえぎの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族希望のかかりつけ医の受診を支援している。また、主治医を変更する際には本人・ご家族の同意を得て、適切な医療が受けられる支援をしている	契約時に家族や本人に説明をし希望に沿った医師の受診を支援しています。従来のかかりつけ医を希望する時は家族の協力を得て対応を依頼しています。協力医は、内科医が2週間に1回、眼科は1ヶ月に1回の往診があり、歯科は週1回希望者が治療を受けています。訪問看護師による日常の健康管理も含め医療体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日FAXで入居者様の状況を伝え、定期的な訪問があるので、相談・助言をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はできるだけ情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の希望を聞き、医療関係者との連携を密にとり支援していく	契約時に看取りについて積極的治療が必要なければ看取る方針であることを説明しています。重度化の中で、医師より説明をし、訪問看護師、家族と都度話し合い、出来る限り意向に添うよう関係者と共に支援しています。訪問看護師から24時間、毎日の対応が来ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回救命救急の講習を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが、地域との連携はできていない	避難訓練は年2回行っています。昼間想定での自主訓練と消防署の協力の下、防災訓練をしていますが今後、夜間想定での避難訓練も考えています。又、当該ホームが地域の避難場所となっています。	

グループホームはるすのお家（もえぎの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人にあった言葉掛けや話し方などに配慮している	利用者の思いの実現を心がけ、尊厳を大切に した対応で日々のケアに取り組んでいます。 トイレ誘導時や衣類の着脱の場面でも プライバシーを損なわない様気を付けて 支援しています。利用者の個人情報の 取り扱いについても職員に徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、選ぶ場面を増やせる ように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって 支援している	できるだけその人のペースに合った 暮らしができるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれが できるように支援している	希望があれば訪問理容だけでなく、 美容室に出かけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、 一人ひとりの好みや力を活かしながら、 利用者と職員と一緒に準備や食事、 片付けをしている	食べたい物を聞くなどしてメニューに 取り入れている。食後の下膳も自発 的に行ってくださっている	利用者に食べたい物を聞いたり、料理 の本と一緒に見てメニューを決める こともあります。利用者のその日の 意思で参加する調理や後片付けは、 様子を見て声をかけ手伝ってもら い、出来る限り見守っています。天 気の良い日や誕生日会には庭で食 事をしたり、食事を楽しめる工夫 をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量 が一日を通じて確保できるよう、 一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	変化があれば個人記録に記入 している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じな いよう、毎食後、一人ひとりの 口腔状態や本人の力に応じた 口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに努 めている		

グループホームはるすのお家（もえぎの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行きたい仕草を見逃さず察知しトイレ誘導を行うよう努めている。食前・食後も声掛けを行う	重度な状態になってもトイレでの排泄を基本とし、布パンツとパットで対応しています。一人ひとりの排泄パターンを把握し、食事前のトイレ誘導や、素振り、しぐさ等で察知し、さりげなく誘導する中で、失敗を無くし自信に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心がけ、排便表に記入し便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ本人の希望に沿うようにしている	毎日いつでも入浴が出来るよう支援しています。本人の希望で毎日や夜間に入浴される方もおられ利用者の希望に沿える体制を整えています。希望によって利用者同士が一緒に入浴する事もあり、楽しみな機会を大切に支援しています。拒否の方への対応は声かけ等で工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で休んだりできるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書のファイルを活用し、理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	晩酌をしている入居者様もおり、好きなことを奪わないよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様の協力を得ながらできるだけ外出できるように努めているが、地域の人々と協力しての外出支援はできていない	買い物に出かけるとき等には何人かの利用者を誘い車に同乗して頂くなど気分転換を図るようにしています。日常的には広い敷地内を自由に散歩されています。敬老の日には喫茶店へ行ったり、花見に出かける等外出の機会を作る工夫をしています。	

グループホームはるすのお家（もえぎの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的な状況によりホームでお預かりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望があれば対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿器を設置したり、観葉植物を置いたり、季節の花を飾るなどし共有スペースの環境作りに努めている	壁には利用者が趣味で撮影した花や人物、風景の写真が飾られています。ソファやテレビが置かれている居間から見る外の自然は、季節が感じられ居心地よく過ごせる環境となっています。食堂から見える畳の部屋は昼寝や洗濯物たたみの空間として利用しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・リビング・ダイニング・和室・玄関のベンチなどで思い思いに過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、今まで使っていた物を持ち込んでもらうよう家族様に説明している	使い慣れた物や趣味、好みを活かした物の持ち込みが、落ち着いて安心して暮らせる事を入居時に説明しています。カーテン以外の寝具、タンス、写真、パソコン、ベット、絨毯等がそれぞれの好みで持ち込まれ、その人らしく暮らせる居室作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置。浴室内には滑り止めマットを置いている		